

# 考える会通信

「秋保地区の交通を考える会」  
発行責任者 青野邦彦  
仙台市太白区秋保町湯元字枇杷原11-5-1  
022-304-9855

## 「地域交通支援事業」 説明会開催

太白区連合町内会長協議会にて

8月29日、太白区役所において太白区連合町内会長協議会が開催され、仙台市から、都市整備局公共交通推進課が本年度より実施している「みんなでつくる地域交通スタート支援事業」について、詳細な説明がありました。

この事業は、中山間地域や郊外、坂道狭路等、住民が不便と感じる地域に対して、仙台市・地域住民・運行事業者三者協同で新たな交通機

として、燕沢の取り組みが紹介されました。

この地区では昨年より地域住民による検討会がたち上がり、新制度の適用条件を満たしていることから、10月21日より乗合タクシーの試験運行が始まります。2000円の均一料金で燕沢と鶴ヶ谷を循環運行し、狭路のため走れなかった路線バスに替わる住民の足になることが期待されています。

「秋保地区の交通を考える会」では、「地域交通スタート支援事業」を積極的に活用し、この地区にあった地域交通を整備できればと考えています。しかし試験運行時に収支率（収入+支出）が3割を超えないと実証運行へ移行できないなど、厳しい条件もあります。持続可能な交通網整備のため、地域の皆さま、とりわけ各町内会長さんのご理解と協力を今後ともお願いいたします。（文責青野）

### 地域一致が鍵

入+支出) が3割を超えないと実証運行へ移行できないなど、厳しい条件もあります。持続可能な交通網整備のため、地域の皆さま、とりわけ各町内会長さんのご理解と協力を今後ともお願いいたします。（文責青野）



### 新制度に期待

秋保地区連合町内会長からは、平成21年のバス見直しの動きを振り返り、「かなり厳しい条件があった中座した。便利のところは、ますます便利になり、不便なところはますます不便になった。集落により意識が違つ。自治体だけの問題ではない。総合的な交通政策が必要だ」との認識が話されました。

### 支援事業概略

地域交通の運行までの流れは、以下のとおりです。

- ①事前相談〜市役所へ地域の課題を相談
- ②ステップ0〜課題

の把握・整理

- ③ステップ1〜運行計画策定
- ④ステップ2・3〜試験運行第一回・第二回
- ⑤ステップ4 実証運行

本格運行

「まちづくりアドバイザー」の派遣をうけ地域の課題を整理したり、ステップ1では「専門コンサルタント」から関係省庁との調整等お手伝いが受けられます。

### 坪沼・青山では

一方、この制度以前にすでに別制度で

「坪沼乗合タクシー」を運行する坪沼地区からは、生



出町内会長による現況報告がありました。

会長からは、路線バスの撤退による主にバス通学中学生への救済手段として必要に迫られ始めたこと、11年前から運行しているが、少子化のため利用者数が減少し、採算がとれて

「助成金は上がったが、助成金は上がったが、金の基金として運用が始まりましたが、」

運営主体は「青山地区交通検討会」。会員を募り15000円の登録料金を払えば無料で家族も使えるというものです。試験運行は二回で60万円の赤字を出し終了。以後は宮交バスの路線延伸で対応していますが、採算が合わない、狭路ですれ違い困難の理由で路線存続が危ぶまれているとのこと。

新制度では、地域・運行事業者・仙台市の三者協同がうたわれ、仙台市からの費用負担、技術支援が明確にされました。使える交通手段もデマンド交通、乗合タクシー、コミュニティバス、自家用有償運送と、地域の特性に合わせ選択できることから、別制度で先行発進し、課題を抱える地域からも、新制度の運用について期待の声が上がっています。

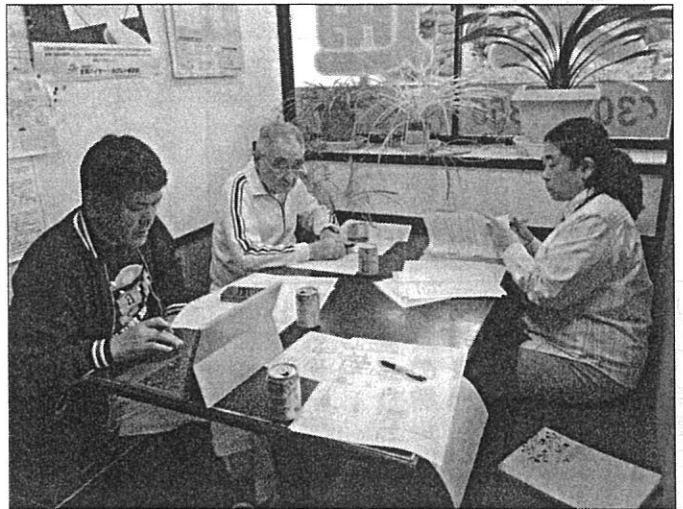
# アンケート集計すすむ

## 分析作業は10月中終了予定

秋保地区の交通を考える会が依頼し、各町内会会長、班長さんの協力を得て、7月から8月にかけて実施された「市バス利用についてのアンケート」の集計作業がすすんでいます。

このアンケートは市政便りに折込み、秋保地区全戸に配布されました。

配布枚数1400枚のうち250枚を回収、回答者数904名、回収率17・9%に達しました。前回平成21年に実施した「バス利用実態調査」での回収率19・2%に匹敵する数値は、いままって地域交通のあり方に対する関心の高さを示すものとなりました。



アンケート集計作業の様子 (9月20日 秋保交通内)

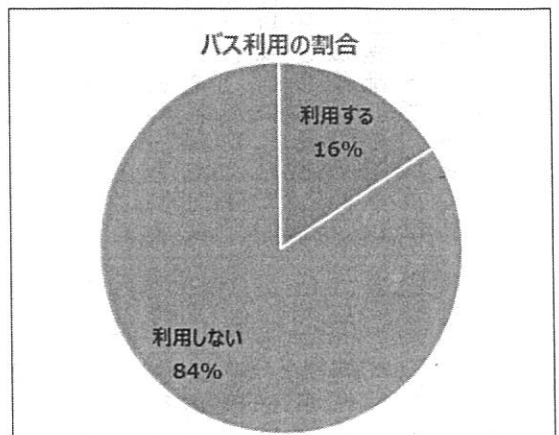
### バス利用の実態

集計結果によると、全回答者数は893名

平均年齢は53・6歳でした。バスの利用状況を尋ねた項目では、このうち751名の方が利用していないと回答

答、割合は84%にのぼりました。バスを利用しない理由を尋ねる項目では、「自家用車使用・家族に送ってもらった」で87%、「時間合わない、その他」で11%を占めました。

一方、バスを利用する目的を尋ねた項目では、通院・通学・通勤を合わせて64%の方が日常的に利用していました。比較的、時間に制約を持つこれらの方からは、バフタイヤ、路線について改善を望む声が多く寄せられています。



バス利用実態調査結果(全体) 石神・川の内地区の利用10%を除き、各地区同様数値を示した

### 「考える会通信」発刊にあたって

今年1月に発足した「秋保地区の交通を考える会」は、早いもので9か月が過ぎようとしています。

自然豊かで美しく、伝統、文化、教育にも抜きん出た資源を持つこの秋保で生活する喜びを等しく持つ町内有志が、たった一つの目的のために「考える会通信」を月一回

集まりました。それは公共交通機関をもっと充実させること。これがかねえは、地域住民の利便向上のみならず、観光、文化に大きく貢献できると信じたからです。

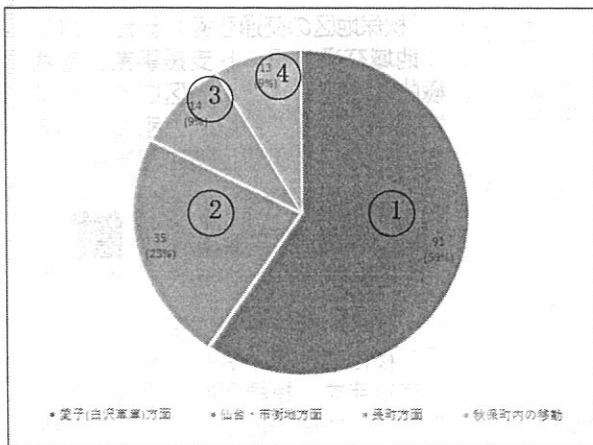
実現のためには地域一体になる必要があります。この「考える会通信」を月一回発行します。会の活動報告のみならず、地域の皆さまのご意見もどんどん取り上げていきます。

この会報は、総合支所に置かせていただきます。お目に触れ、ご一緒に秋保の未来を語られんことを願っております。



発行します。会の活動報告のみならず、地域の皆さまのご意見もどんどん取り上げていきます。

この会報は、総合支所に置かせていただきます。お目に触れ、ご一緒に秋保の未来を語られんことを願っております。



「もっと便利に利用したい時間帯・目的地」調査結果 ①愛子(白沢方面) ②仙台 ③長町 ④秋保内

石神・竹の内地区のようにバス路線から離れている地区でも、回答者の10%の人がバスを利用していると回答しており、家族知人にバス停まで送ってもらっても、バスに頼らざるをえない状況にあるのが垣間見えます。

### 利用目的地では

もっと便利に利用したい時間帯・目的地調査では、153件の回答が寄せられました。愛子への希望が91件と最も多く、続いて仙台市街への直接乗り入れが49件(長町含む) 秋保地区内移動が13件と続きます。通勤・通学関係の方の要望かと思われま

す。もっと便利に利用したい時間帯・目的地調査では、153件の回答が寄せられました。愛子への希望が91件と最も多く、続いて仙台市街への直接乗り入れが49件(長町含む) 秋保地区内移動が13件と続きます。通勤・通学関係の方の要望かと思われま